

平成 29 年度 医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業
(アフリカにおける顧みられない熱帯病 (NTDs) 対策のための国際共同研究プログラム)
中間評価
課題評価委員会における評価コメント

- | | |
|-------------|--------------------------------------|
| 1. 研究開発課題名 | 迅速診断法の開発とリスク分析に基づいた顧みられない熱帯病対策モデルの創成 |
| 2. 研究開発機関名 | 北海道大学 |
| 3. 研究開発代表者名 | 鈴木 定彦 |

これまでの J-Grid や SATREPS での成果を活かし、乾燥 LAMP 法を用いて遠隔地や資源が限られた環境での診断の可能性を拡大させており、ハンセン病および HAT の遺伝子および血清学的診断法の開発も着実に進んでいる。今後は各検査法のザンビアにおける感度や特異度の検証を行い、ザンビア政府主体の検査法として取り込まれるための検討を期待する。

感染実態把握のために行った疫学調査では、得られている情報が短期の現地活動による断片的なものであるため、長期的な調査による正確な感染実態の把握が必要である。また、ハンセン病および HAT の対策パッケージの立案については、提案されているものは診断のためのフローチャートであるため、地域の疾患制圧を目的とした対策パッケージの立案への改善が必要である。